幻想の明治

燃える観音

後編

明治9年3月28日付　東京曙新聞より

高信太郎

小さな
御堂ゆえ
火のまわりが
早く……
手の
ほどこしょうが
ござらんかった
……

なんとかその
観音像だけ
でも
持ち出せ
なかったのですか
さあ
それが
できんもん
じゃから
こうして
腹をたてて
おるんじゃ

なんと

親木
観音?
それは
みごとなもので
ござったが
残念ながら
今は灰……

サラ
サラ
サラ

これが
灰か
なさと
いうか
世の無常を
……

こ
この木は……
あぶない!
タタリが!

なんというか不思議な気が…
!
おぬしなら出来るかもしれん…
するとこの桜の木の中に…
そうじゃ
頼みます
フーム
お前さんの探している観音があの中にねえ…
お願いですどうか私に……
いいでしょうやってごらんなせー
ダメでもともとの木なんだ
あ
ありがとうございます

それでその与一という男が観音像を彫ったのですね
そうじゃ
もうずい分昔のことじゃ

そりゃもう一心不乱の作業だったそうじゃ

ナムカンゼオン
ボサツ

ナムカン
ゼオン
ボサツ

フーム
これはひょっとすると
与一さん……

……

それで……
ホッホッ
ホッ
もとより中にいるものを出すのじゃから楽なことでな

それは
みごとな
観音菩薩が
あらわれなすった
……

おとっつぁん
お里はわしの一人娘。
観音のてがらとは話は別じゃ
許すわけにはいかん。
……

こうして与一さんはまた僧の姿となって村を出ていったのじゃ

それでお里さんはどうしました?
ホッホッホッ
どうもせんかったな

じーっと
ただじーっと与一さんの帰りをまっておっただけじゃ……

こうやって
じーーっと

じーっ

もし
その乞食はどうなりました
むろんバチが当り焼死しましたが

何か残したものは!?
そういえば……

焼けあとの灰の中からこんなものが…

や
やっぱり

無常というかなんというか……
残ったのはこれ
のみ
か
のみねぇ…
それがどうか……

おわり